

部会長挨拶

全日本音楽教育研究会

大学部会 部会長 河野 正幸

令和3年度第27期の全日音研事業が始まりました。第1回常任理事会（今年度本部全国理事会の代替開催）でご承認いただき大学部会長及び全日音研副会長を引き続き務めさせていただきます。大学部会では、長年滞っておりましたホームページのリニューアルを行いました。本部HPからアクセスする設定は変わりませんが、掲載内容の充実、迅速な更新に努めて参ります。

さて、長引くコロナ禍で全日音研、各地区音研の研究大会が中止や開催方法の変更を余儀なくされています。今年度開催の全国大会八戸・三戸大会は総合大会での開催予定でしたが、開催準備の諸事情から〈誌面開催〉となりました。

大学部会は、八戸学院大学短期大学部の全面的なご協力により開催を予定しておりましたが、止むなく誌面開催への参加を見送り、部会本部主催でオンライン開催とすることと致しました。数年前から発表会場としての準備に格別なるご協力下さった八戸学院大学短期大学部様には、心より感謝申し上げます。

大学部会は昭和44年の全日音研発足以来、総合大会（全部会合同開催）と大学部会大会を隔年で開催して参りました。この間、多くの会員諸氏が個人・団体の音楽教育研究発表をご提供下さり、本会会誌に掲載した研究発表論文は大きな研究成果として残されています。

令和元年度全日音研発足50周年の全国大会東京大会では、武蔵野音楽大学を会場に午前中6名の個人発表につづき、首都圏の音楽科教員養成課程をもつ大学から、教師を志す学部生・大学院生総勢20名による、シンポジウム〈これからの音楽教育をデザインする〉を開催致しました。全日音研の全校種総合の研究組織を生かして、学校音楽教育と大学部会の教員養成や専門研究を繋ぐ役割を今後の研究に位置づけよう、という発想から生まれた画期的取り組みであったと自負しております。あの時予想もしなかった今回のコロナ禍による、学校の音楽科授業や様々な音楽文化活動への制約は、関係者に多くの苦難とともに、音楽教育への新たな課題や発想ももたらしたように感じます。

大学部会本部では、令和元年度東京大会での研究成果をコロナ禍で途切れさせることなく、会員諸氏のご指導ご鞭撻を賜りながら全国の、そして全校種の音楽研究を繋ぐ事業の更なる向上を目指し改善・改革に努めて参ります。